

第56回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和6年7月29日(月) 18:00~19:15

2 場所 岡山大学病院 管理棟3階 大会議室

3 出席者 52名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○令和6年3月に最新情報を掲載した岡山県がんサポートガイド【第3版】を作成したと報告があった。岡山県ホームページで公表するとともに県内のがん診療連携拠点病院等に配布しているのでご活用いただきたい。主な変更点は、医科歯科連携に関する情報、アピアランスケア、ACPについての情報追加、小児・AYA世代のがんについては第4部に支援機関・制度、妊孕性温存療法に関する情報をまとめて掲載した。

○引き続き、がん患者のアピアランスケア助成事業実施市町村について報告があった。現在9市3町が実施しており、今年度から実施を計画している市町村もあるためさらに拡大していくと思われる。患者から相談があれば情報提供をお願いしたい。

(2) 事務局・岡山大学病院

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計(R6.4~6月)について報告があった。アクセス数は月平均約1400件で昨年度より増加している。県内からのアクセスが約95%を占めており、最も閲覧数が多かったのは前回同様「セミナー・講習会(医療関係)」であった。

○令和6年度各拠点病院等から情報提供があった研修会・講演会について報告があった。引き続き、今後も情報提供いただきたい。

(3) 作業部会等

① 地域連携部会

○令和6年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績(R6.4~R6.6集計分)について報告があった。

- ・2022年度に「大腸がんパス」2023年度に「胃がんパス」を改訂し、活用を促す活動をしている。
- ・パス使用実績合計では、倉敷中央病院、岡山大学病院、倉敷成人病センター他で多く使われており、全体として昨年より件数が上がっている。まだ使用されていない施設はぜひ患者・かかりつけ医との情報共有、連携ツールとしてご活用いただきたい。
- ・岡山市医師会が推進しているメディカルケアステーション(MCS)を活用しての在宅医との連携について岡山大学病院で検討を行っている。各施設の地域連携担当者も交えて今後議論できればと考えているので協力をお願いしたい。

出席委員から、パスの利用件数が少ないと思うが他の県と比較してどうなのかと質問があった。

→担当委員：パスを利用するには色々条件があるためなかなか利用が進まないと考えている。あらかじめ患者と連携先医療機関の同意を取っておく必要があるため事務方も手間と時間がかかる。さらに診療報酬算定において、がんと診断されてから最初の入院で、さらに術後(退院後)30日以内に1回に限りという要件もあるため算定に結びつける利用がなかなか難しい。

→出席委員：かなりよく使われている県もあるようである。診療報酬が絡むと、前もって患者を出す側、受ける側の医療機関を厚生局に届け出しておく必要があり、パスの同意書の取得時期も限られているなど様々な条件が含まれているため、利用が伸びないのではと考える。

② がん相談支援部会

○5月27日にweb開催された第54回がん相談支援実務者会議の報告、及び昼のがんカフェについ

て広報があった。

- ・第1回がん相談員研修は8月31日開催予定。
- ・9月のがん征圧月間は各施設のがん相談支援センターでパネル展示を実施する。
- ・がん相談支援センターのPRについて、新たに学校の養護教諭を検討しており、岡山県に相談中。
- ・図書館との連携展示は、今年度新たに2施設を追加予定。
- ・2024年度 PDCA サイクル相互評価について、最終年度に当たる今年度は、11月～12月初旬までにweb開催にて相互チェックを行う予定である。前回同様、管理者にも極力ご同席をお願いしたい。
- ・昨年度の報告と本年度の取組みについて、患者からのフィードバック体制をどうしているか各施設に発表してもらい情報共有した。
- ・ピアサポート事業について、今年度は新規3名を含めた9名体制で実施する。
- ・2024年2月に設置された岡山大学病院希少がんセンターについて広報があった。
- ・「昼のがんカフェ」を11月30日（土）13:00～14:30 に対面にて開催予定。

引き続き、第22回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会（5月24日）について報告があった。

- ・今後の部会のあり方に関するアンケート報告によると、部会の意義・効果として自施設、自県への取組みにはつながっているが、「現場の声をがん対策に反映できている」という感覚は低かった。
- ・今後、委員5～6名で部会運営委員会を設置し、今後の部会の取組み、親会への提案について意見交換を行っていく。
- ・災害時のがん患者受け入れ状況に関する情報共有の仕組みについて、これまでは「被災地周辺地域受入体制調査フォーマット（EXCEL）」を用いて情報収集を行って公開してきたが、今後はwebアンケートフォームでの情報収集に変更することとなった。

③ 緩和ケア部会

○令和6年度緩和ケア研修会の開催予定について報告があった。新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきて、院外からの受講者も受入れつつある状況である。

引き続き、第11回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会（12月8日）について報告があった。

- ・第4期がん対策推進基本計画の緩和ケアの部分について厚生労働省から説明があった。
- ・成功事例として京都府の「難治性疼痛等への対応に関する連携」、岐阜県の「緩和ケアにおける介護施設との連携の取組み」、国立がん研究センター中央病院の「専門的がん疼痛治療 web コンサルテーションシステム」の紹介があった。

④ がん看護部会

○3月22日にweb開催された第69回がん看護部会、及び5月24日に対面開催された第70回がん看護部会について報告があった。

- ・10月19日（土）にがん看護レベルアップセミナーを開催することを決定した。テーマ「精神疾患を持ったがん患者さんの看護」で、担当の岡山赤十字病院を中心に計画を進めている。
- ・教育グループは岡山県共通のがん看護共通スライドの修正を進めている。
- ・質評価グループでは、「岡山県のがん看護の現状と課題」について現状把握のため、がん看護に関わる看護師を対象に各施設でアンケート調査を行う。倉敷中央病院を中心に進めてきたアンケート様式が完成したため、各施設にて配布中である。
- ・グループで活動するため、他のグループの状況がわからないという問題が生じており、部会データの共有方法としてGoogleドライブの活用を検討している。

⑤ 研修教育部会

報告事項なし

⑥ がん登録部会

○6月10日にweb開催された第21回がん登録部会について報告があった。

- ・院内がん登録データの活用の一つとして、協議会ホームページの掲載内容について協議した。がん

登録部会のページには毎年作成している「院内がん登録報告書」を掲載している。一般市民により理解してもらうために、各がん種の集計報告に医師がコメントをつけることとした。各病院長又はがんセンター長宛に岡山大学病院長名で依頼することになっているのでご協力をお願いしたい。

引き続き、2024 年度都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会について報告があった。

- ・がん登録事業、予後調査支援事業、研修・認定事業について例年同様の報告と、がん登録データを活用した調査について説明があった。

⑦ がん薬剤師部会

○6月21日にweb開催された令和6年度第1回がん薬剤師専門部会について報告があった。

- ・研修用スライドの各担当の引き継ぎ、アップデートを依頼した。
- ・2024年度の研修会開催計画について協議した。「大腸がんのICI」をテーマとして考えている。
- ・診療報酬改定に伴う情報交換を行った。
- ・協議の上、今後の部会運営、議事録の担当を持ち回りとする事とした。

⑧ 歯科部会

「岡山県地域医療介護総合確保基金対象事業 がん患者を対象とした地域歯科保健医療の実態調査及び基盤整備」についての資料提出があった。

○岡山県歯科医師会から、コメントがあった。

- ・本事業についてはホームページに公開しているので参照されたい。
- ・今年度は全体で開催する研修会に加え、各地区で開催する研修会も予定している。

⑨ がんゲノム医療部会

○がんゲノム医療部会活動実績について報告があった。

- ・岡山臨床遺伝カンファレンスは今年度5回計画している。内1回はすでに開催済であるが、残り4回は開催が近くなったら広報するのでぜひご参加いただきたい。
- ・診療連携について報告があった。がんゲノム医療を始める施設からの参加があった。
- ・がんゲノム医療中核拠点病院である当院で行っていたエキスパートパネルが、今年度から厚労省の通達により各施設で実施可能となった。
- ・今後の遺伝子パネル検査(MGPT)の保険収載を念頭に、遺伝子腫瘍に精通した医療者の人材育成を開始した。

⑩ がん・生殖医療部会

○6月11日にweb開催された第8回がん・生殖医療部会について報告があった。

- ・3か年の活動計画(PDCAサイクル評価)について、1年目は各施設で妊孕性温存の紹介フロー図作成、2年目は各診療科に周知を図り、3年目となる今年度は各診療科にどの程度周知できたかアンケート調査を実施し評価する予定である。
- ・アンケートの元となる予備調査(事前アンケート)を実施したところ12施設から回答があった。
- ・がん診療科においてがん治療前に妊孕性温存についての説明が「できている」と回答したのは8施設、説明後のフォローまでできているのは6施設、がん治療開始後の継続支援までフォローできているのは1施設であった。診療科によって温度差も見られた。
- ・事前アンケートの結果をふまえて、全診療科を対象として調査するのか、あるいは診療科を指定して実施するのか等を協議し、また各施設の事情も考慮してアンケートを実施するのでぜひご協力をお願いしたい。
- ・県の協力のもと今年度も拠点病院等を訪問して妊孕性温存に関する研修会を開催している。スタッフに講演することで妊孕性温存について知っていただけたらと思う。
- ・毎年開催している小児がんフォーラムについて、今年度からAYA世代も含めた名称に変更していただき来年2月に開催する予定である。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院

報告事項なし

(5) その他

○倉敷市より、「倉敷市がん患者のウィッグ等購入費助成事業」を令和6年7月～開始したと広報があった。ウィッグ、胸部補正具ともに令和6年7月1日以降に購入し、購入日の翌日から1年以内という条件がある。その他の条件も含めて問合せがあればご案内をお願いしたい。

6 協議事項

特になし

7 その他

○出席委員から、協議会ホームページへの治験関連情報掲載について情報提供があった。がん診療連携拠点病院等の整備指針において、参加中の治験について広報すること、適切な情報提供を行うこと等が示されている。そこで、岡山医療連携推進協議会が進めている「CMA治験NWのHPにおける治験情報公開」について、広く市民へ情報公開を行うために岡山県がん診療連携協議会のホームページにリンクを貼って参照できるように進めていく予定である。各施設での治験も共有できればと考えているのでご協力をお願いしたい。

○出席委員から、第17回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会で報告があった「がん診療連携拠点病院等の整備指針見直しスケジュール」と国の協議会の在り方について情報提供があった。

・がん診療連携拠点病院等の整備指針見直し期間を6年ごととし、がん対策推進基本計画の見直し期間と一致させる。

・次回の見直しは令和10年度を目途とする。

・令和5年度から始まった第4期がん対策推進基本計画は6年間、一方指定更新は4年間となっているため、令和8年度に整備指針の改定は行わず2年間の指定(令和9・10年度)とする。

・令和11年度から第5期がん対策推進基本計画、指定更新ともに6年とする。

・国のがん診療連携協議会では、協議会の在り方について議論が進んでいる。協議会は年1回開催しているが(今年は第17回)形骸化しており、情報提供の場になってしまっていないか。本来は各県の拠点病院同士が連携を進めていくことが目的であったが、オンライン開催の影響もあってかそうはなっていない。国の部会は各県から上がってくる現場の意見を聞き、問題点を抽出し、協議して次の対策に生かしていく役割がある。今後、国の部会をどのように運営していくか見直しが進んでいる。また協議会事務局も国立がんセンターだけでは回らなくなっており、中央病院からも人員を入れることが検討されている。

・岡山県がん診療連携協議会も発足から18年目を迎えた。国から求められる要件を満たすために作業部会を次々と増やしてきたが、本日の協議会も議論というより報告だけになってしまっている。今後の部会・協議会の在り方について、前回、前々回もお話したが協議を進めたいと思う。各部会にアンケートを取らせていただいて議論していただき、より良い部会にしていきたいのでご協力をよろしくをお願いしたい。

○岡山市から、令和5年度の「岡山市がん患者アピアランスサポート事業」は272件の申請があったとお礼の言葉があった。

○岡山産業保健総合支援センターから、治療と仕事の両立支援についてガイドラインの周知を行ったり、患者の相談支援業務を行ったりしているので今後もよろしくをお願いしたいと発言があった。

○患者会から、岡山県がんサポートガイドは患者会には配布していただけないのかと質問があった。

8 次回開催日

次回は、令和6年12月開催予定。